

平成18年6月5日

河川局砂防部砂防計画課

インドネシア国ジャワ島中部地震復旧復興支援ニーズアセスメント調査について

1. 調査の目的

- ・ ジョグジャカルタ特別州バントウル県を初めとする被災地の現況、インドネシア側関係機関の活動状況、他ドナーの支援状況等を把握する。
- ・ 復旧・復興に対するニーズを把握し、我が国の復旧・復興支援の枠組みを検討する。
 - ◇ 緊急無償：緊急物的援助及び情報収集による支援内容調査検討 等
 - ◇ 災害復興支援無償：小中学校建設、地域診療所修復 等
 - ◇ 技術協力：既存プロジェクト活用、短期専門家派遣 等
- ・ インドネシア側関係機関に対し、2次災害防止に関する提言を行う。

2. 調査団の構成（団員数12名）

団長	米田一弘	JICA アジア第1部次長
外務省 無償資金協力課	植野 喬	
国土交通省河川局砂防部	西本 晴男	火山・土石流対策官
（独）建築研究所	植府 龍雄	国際協力審議役
JICA 職員（団長を除く）	3名	
コンサルタント	5名	

＊ 2次災害（土砂災害）調査の支援として、本調査団に3名が同行。

桜井 亘	（独）土砂管理グループ	火山土石流チーム
松井 宗廣	（財）砂防・地すべりセンター	砂防技術研究所技術部長
野呂 智之	JICA 砂防技術専門家	（現地参集：国土交通省より派遣）

3. 2次災害（土砂災害）調査内容（案）

- ・ 震源地周辺の山地部集落及びムラピ火山山麓の土砂災害調査
- ・ 2次災害防止に向けた緊急対策に関する提言とりまとめ
（ハザードマッピング、ムラピ火山対策 等）

4. スケジュール（予定）

6月5日（月）	出発 日本→ジャカルタ
6月6日（火）	ジャカルタ→ジョグジャカルタ
6月7日（水）～6月11日（日）	現地調査
6月12日（月）	ジョグジャカルタ→ジャカルタ
6月13日（火）	在インドネシア日本大使館・JICA 現地事務所等との協議
6月14日（水）	帰国 ジャカルタ→日本

ジャワ島中部地震概要

1. 地震概要 (2006 年 06 月 01 日 防災科学技術研究所)

- ・発生日時 : 2006 年 5 月 26 日 5 時 54 分頃 (日本時間 7 時 54 分頃)
- ・震源地 : インドネシア国ジョグジャカルタの南南東約 10km
- ・マグニチュード (M) : 6. 3
- ・震源の深さ : 深さ約 10km

2. ムラピ山の火砕流

- ・5/26 地震発生の直後、ムラピ山 (標高 2 9 1 4 m) の火口付近に発達していた溶岩ドームが崩壊、大規模な火砕流が発生。
- ・5/30 1 0 回の熱煙噴出と熔岩流が観測、火山活動の活発化で新たな噴火が起こる恐れ

3. 被害状況

- ・死者 : 4 9 5 8 名 (国家災害対策調整庁 6 月 2 日)
- ・負傷者数 : 46, 148 名
- ・避難民 : 139, 618 名
- ・家屋倒壊 : 67, 505 軒
- ・5/29 からジョグジャカルタ Adisutjipto 空港の商業フライト運行が再開
- ・人的・物的被害とも、ジョグジャカルタ州南部のバントウル県周辺に多い。

4. 日本政府の対応

- 5/28 外務省、JICA 及び医療関係者からなる緊急援助チーム (7 名) 派遣
- 5/28 総額 1, 000 万ドル (11 億 1, 000 万円) の無償資金協力及び、2, 000 万円相当の緊急物資を提供 (5 / 3 1 に引き渡し) を決定。
- 5/29 外務省職員をはじめ、医師 4 名、看護師 7 名、薬剤師 1 名等から構成される国際緊急援助隊医療チーム派遣。
- 6/2 自衛隊の「インドネシア国際緊急医療援助隊」約 5 0 人が医療活動を開始
ジョグジャカルタの砂防技術センターに医療物資その他を一時保管。
- 6/4 陸上自衛隊で編成する追加の派遣援助隊約 1 0 0 人が出発。